

喜多流 第42回

中尊寺 薪能

6月3日(月) 千ヶツト発売開始

令和元年8月14日(水)午後4時半始
中尊寺白山神社能舞台

祭儀
火入之儀

仕舞

養老

佐々木宗生

枕慈童夕七

塩津哲生

和泉流

狂言

昆布売

野村万作

野村萬斎

シテツレ・黒女 佐藤寛泰
シテツレ・黒女 塩津圭介
シテツレ・黒女 友枝真也

後シテ・鬼 前シテ・黒女 佐々木多門

能 紅葉狩

ワキ・平糴茂 森 常好

ワキツレ・糴茂從者 館田善博
ワキツレ・糴茂從者 梅村昌功
アイ・女 破石晋照
アイ・武内之禰 石田幸雄

終演予定 一九・二〇頃

会費 薪能奉賛券

S 一〇、〇〇〇円 (当日八、〇〇〇円)
A 七、〇〇〇円 (当日五、〇〇〇円)
B 四、〇〇〇円 (当日五、〇〇〇円)
学生 三、〇〇〇円

お申込み 中尊寺薪能の会 電話(〇一九二)四六一二二一〇

※雨天も催行(見所屋根一部架設) ※写真撮影・録音・録画不可

〈喜多流〉

中尊寺 薪能

たきぎ のう

一六・三〇

祭 儀 白山神社宮司
火入之儀 薪能奉行

株式会社 大林組
東北支店長

和 國 信 之

喜校会連合会 会長

菅 原 岩 夫

いわて東山歴史文化
振興会 会長

佐 藤 育 郎

一七・〇〇

仕舞

養 老
枕慈童

佐々木 宗 生
塩 津 哲 生



写真「昆布売」万作の会提供

地謡

大島輝久
狩野了一
長島 茂
金子敬一郎

和泉流

狂言

昆布売

シテ・昆布売

アド・大名

野 村 万 作
野 村 萬 斎

後見 破石澄元

(休憩)

一七・五〇

能

紅葉狩

後シテ・鬼女
前シテ・里女

シテツレ・里女
シテツレ・里女
シテツレ・里女

佐 藤 寛 泰
塩 津 圭 介
友 枝 真 也
佐 々 木 多 門

ワキ・平維茂
ワキツレ・維茂従者
ワキツレ・維茂従者
アイ・女
アイ・武内之神

亀井洋佑 太鼓
森 貴史 笛
破 石 晋 照
梅 村 昌 功
石 田 幸 雄

大鼓

小鼓

森 貴史

後見

中村邦生

地謡

大島輝久
内田成信
友枝雄人
金子敬一郎
狩野了一
出雲康雅
粟谷能夫
長島 茂

附祝言

終演予定 一九・一〇頃

昆布売

供を連れずに出かけた大名が、通りかかった若狭の小浜の召し(献上)の昆布を売る男に声をかけ、發してむりやり太刀を持たせる。しおしが従っていた昆布売りが、やがて我慢も限界に達し、隙を見て太刀を抜くと、逆に昆布を売れと大名を脅す。売りがたの下手な大名に、昆布売りはさまざまな節に乗って売るよう注文をつけるが…。

昆布売りが太刀を抜くことで強いはずの大名より優位に立つという、下克上の世相を反映した立場の逆転が笑いを誘う狂言です。また昆布の売り声には、浄瑠璃節や踊り節など中世の流行歌謡が取り入れられています。

紅葉狩

この辺りに住む華やかな装いの美女たち(前シテ・シテツレ)が、山を深く分け入って紅葉狩の酒宴を開く。そこへ狩りで鹿を追って平維茂(ワキ・ワキツレ)の一行がやって来て、高貴な女性たちが深山で暮らして紅葉狩の宴をしているのを見て不審に思うが、維茂は心遣いをして従者一同とともに静かに通り抜けるようにする。美女は声を掛けて酒宴に誘い、断る維茂の袂に取りついて、席へと招き入れて酒をすすめる。麗しい女性の接待の舞に杯は重なり、いつしか維茂は心も乱れて眠りの誘惑に負けてしまう。女は舞いながら、維茂が深く寝入ったことを見届けると、にわかに今までの情景を凄まじく一変させたかとするうち、激しい夜嵐の中へ怪しく姿を消してしまふ。

八幡神の末社である武内の神(アイ)が、維茂の夢中に危険を知らせるお告げをして神剣を授けると、ようやく維茂は目を覚ます。

風が吹き荒び、稲妻のひらめく光に映り現れる鬼女(後シテ)の姿。維茂は八幡大菩薩に祈念して神より授かった剣を抜いて鬼女と渡り合って戦い、苦戦を強いられるが、ついに鬼を斬り伏せて退治するのであった。

平維茂は平安末期の武将。紅葉の名所の信州戸隠山には今も鬼女伝説が語り伝えられています。前段の美しい美女の舞のうちに一転する展開や、後段の怖ろしい鬼女との闘いを描く場面など見どころ多く、古来より人々に愛されてきた名曲です。

表使用写真『紅葉狩』佐々木宗生所演